

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

動脈表在化穿刺の現状と今後の課題

2. 研究の対象患者

2021年9月から2025年9月までの間に、当院で動脈表在化への穿刺にBH針を使用した維持血液透析患者83名の方のうち、以下の基準を全て満たす患者さん

(1) 選択基準

- 1) 当院において日常診療下で維持血液透析を行った方
- 2) 透析施行時に年齢が20歳以上の方
- 3) 性別不問
- 4) 入院・外来は不問

(2) 除外基準

本研究の情報公開に対し、本人または代諾者からの参加拒否の意思を表示された方

3. 研究の対象期間

2021年9月～2025年9月

4. 研究の概要

血液透析を施行する上で、血液を脱血・返血するためのアクセスルート(バスキュラーアクセス:VA)造設は必要不可欠である。バスキュラーアクセスのうち動脈と静脈を自己または人工の血管でつないで作成する内シャントは最もよく用いられるが、大量の血液が流れることで心臓の負担になり心疾患を増悪させるリスクがある。それに対し、上腕動脈を外科的に皮膚の直下に持ち上げて穿刺する動脈表在化は心疾患症例などに対し有用なバスキュラーアクセスであり、高齢化に伴い増加する事が予想される。しかしながら動脈表在化は穿刺困難や感染、動脈瘤、狭窄・閉塞などの合併症が課題となるため、当院では血管保護・穿刺者負担軽減を目的として、皮膚表面とシャント血管壁との間に固定された穿刺ルート(ボタンホールトンネル)を作成するボタンホール(以下、BH)穿刺を導入している。BH穿刺に関する報告は少ないため、当院におけるBH穿刺の現状を後ろ向きに調査することで傾向を把握し、今後の課題や対策について検討する。

5. 研究実施予定期間

2026年5月20日～2026年6月30日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕: 生年月日、年齢、性別、動脈表在化再作成回数

〔当院透析センタースタッフに対するアンケート調査結果〕: 過去に実施したアンケート調査の回答内容

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者(又は代諾者)個々に結果説明することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 透析センター 大槻 哲平

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)